

釣り船転覆を想定 水難事故に備えて四署が連携



三連はしごを応用してはしごクレーンで要救助者を堤防に引き揚げる救助隊員

助訓練、救命ゴムボート四隻の漂流者の確保訓練で、最終に

海や川、また、プールなどの水のレジャーシーズン前に、津市消防本部は、六月二十八日に雲出伊倉津町の伊倉津漁港で、四署(中消防署・北消防署・久居消防署・白山消防署)が連携して救助隊員ら六十七人が参加し、合同水難救助訓練を行いました。訓練は、釣り人八人が乗った釣り船が転覆し、一名は自力で岸壁までたどり着いたが、残りの七名が行方不明。なお、全員がライフジャケットを着用しており、現在も水面を漂流中との想定で始まり、救助隊員による救命索発射銃の浮環弾を使用しての救助訓練、同隊員二名で要救助者を直視しながらの泳法による溺者救

は、救助工作車などに積載された三連はしごを応用して、同隊員がロープや滑車などを使用して、はしごクレーンを作成し、救命ボートにより救助された漂流者を堤防に引き揚げる訓練が本番さながらに行われ、夏本番に備えて、各消防署が水難救助の連携を確認しました。

四署合同水難救助訓練で有事の連携を確認

今年上半期に市内で発生した建物火災は三十八件で、そのうち住宅火災が二十六件で約六十八パーセントを占めています。住宅火災の主な出火原因は、こゝろやストーブなどです。また、夜間に六十五歳以上の高齢者が

火災 住宅用火災 警報器の設置を



平成十九年上半年 火災・救急・救助統計
一月一日～六月三十日

訓練終了後、野田重門津市消防長から、「山から海にかけて、広くなった管内、いかなる場所において特異な水難事故が発生するか計り知れません。今日の訓練を検討し反省点を見出し、気象条件なども十分考慮して、一朝有事に備えて下さい。」と講評しました。

救急の出動件数は五千四百二十六件で、その内訳は急病三千三百六十八件、交通事故六百八十四件、一般負傷七百四十二件、その他六百三十一件となり、昨年同期と比較すると四十一件減

救急 急病が六割以上

区分	平成19年上半年	平成18年上半年	比較 ▲は減
火災件数(件)	101	72	29
種別	建物火災	38	5
	林野火災	19	8
	車両火災	9	▲2
	船舶火災	0	0
	その他火災	35	17
損害額(千円)	69,858	153,786	▲83,928
建物焼損床面積(m ²)	1,164	1,762	▲598
死者(人)	4	1	3
負傷者(人)	14	4	10

逃げ遅れて犠牲になる火災が依然発生しています。このような住宅用火災警報器を設置しな

市内で発生した救助出動件数は六十六件で、その内訳で最も多かったのが交通事故三十六件で、約五十五パーセントを占めました。続いて火災二十件、水難事故五件、建物などによる事故二件、その他の事故三件でした。昨年同期と比較すると五件増加しました。

救助 交通事故が半数以上

また、救助人員は四十九人で、昨年同期より八人増加しました。

区分	平成19年上半年	平成18年上半年	比較 ▲は減
出動件数	5,426	5,467	▲41
搬送件数	5,041	5,112	▲71
不搬送件数	385	355	30
搬送人員	5,195	5,272	▲77

少し減りました。また、搬送人員は五千九百九十五人で、昨年同期より七十七人減少しました。



区分	平成19年上半年	平成18年上半年	比較
出動件数	66	61	5
活動件数	39	34	5
救助人員	49	41	8